

原木シイタケ栽培作業の省力化 ()

1 研究のねらい

～ 報 では、鋼管を使用し合掌伏せして天地返しを行う方式が、ヨロイ伏せで天地返しする方式より作業負担が軽減されることを報告したが、今回はそれぞれの伏せ込み方式で管理したホダ木からの乾燥収量（平成 17 年秋、18 年春秋、19 年春秋、20 年春）について調査を行ったので報告する。

2 調査方法と結果

(1)調査方法：平成 16 年 3 月に植菌したホダ木中低温菌 2 品種各 100 本をハウス内仮伏せ、4 月に林内に搬出、50 本ずつヨロイ伏せ及び鋼管を使用した合掌伏せにより、梅雨時と秋雨時、翌年の梅雨時の 3 回天地返しを行った。ヨロイ伏せにしたものについては、ホダ起し時に合掌伏せにした。なお、双方ともホダ起し以降は天地返し等の人為的な操作は行わず、発生した子実体は六分開きを目安として採取し、乾燥後に収量調査を行った。

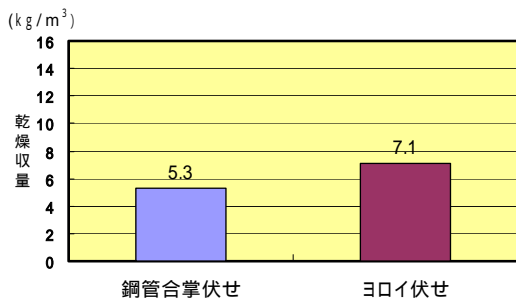


図-1 品種A 3年間の収量

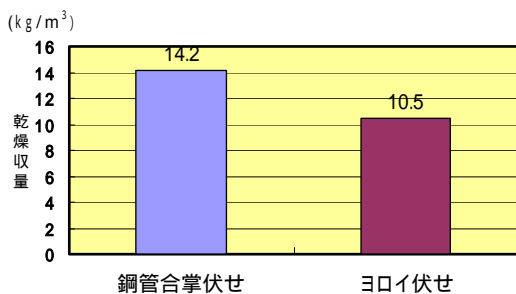


図-2 品種B 3年間の収量

(2)結果：3年間の乾燥収量は、図-1～4に示すとおり、品種Aではヨロイ伏せで管理した方が、品種Bは本伏せから鋼管を使用して合掌に伏せ、天地返し作業を省力化した方からの収量が多いという結果となった。なお品種Bは、図4に示すとおり秋子の発生もあったが、秋子については、発生した3回とも従来のヨロイ伏せからの収量が多いという結果となった。

3 今後の検討事項

ホダ木 1 代当りでの収量については、さらに 2 カ年調査が必要となることから、今後も継続して収量調査を実施する予定である。また、初回春子収量の多さが品種 A・B で正反対の結果が出た原因を調査することと併せて、合掌伏せでもヨロイ伏せと同等の収量が見込める品種の有無について調査を行う予定である。

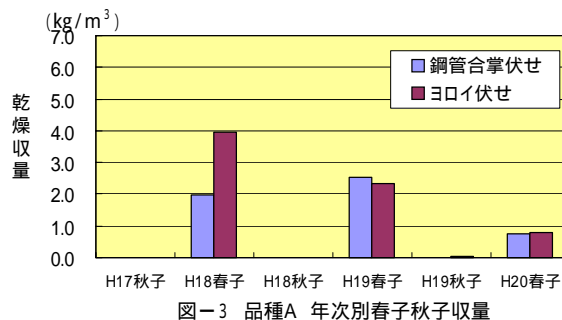


図-3 品種A 年次別春子秋子収量

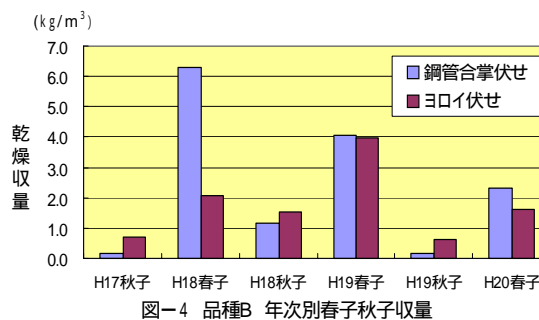


図-4 品種B 年次別春子秋子収量

原木シイタケ栽培作業の省力化 ()・・・成果速報 138

原木シイタケ栽培作業の省力化 ()・・・成果速報 144

原木シイタケ栽培作業の省力化 ()・・・成果速報 225

(担当 研究部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割 560-11

TEL019(697)1536

岩手県林業技術センター

FAX019(697)1410

ホームページアドレス

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>